

## 鳥取大学における産業動物臨床教育の現状について（平成30年度）

鳥取大学農学部共同獣医学科 獣医繁殖学教室 教授 菱沼 貢

鳥取大学農学部の獣医学科は、平成25年度より岐阜大学との共同獣医学科となっています。鳥取大学と岐阜大学で共通の獣医学教育を行うため、授業カリキュラムを大幅に変更し、授業の実施方法も対面式、遠隔講義、教員移動型、学生移動型と多様になりました。新しいカリキュラムは学年進行にあわせて実施しています。共同獣医学科1年次学生への産業動物臨床教育も平成30年度で6回目となり、実施方法も毎年改善していますので、今回はその内容を紹介します。

共同獣医学科の1年次科目「大学教育導入演習Ⅰ」（＝学生移動型の合同授業）では、鳥取大学の1年生38名と岐阜大学の1年生32名、計70名を対象として、鳥取県立大山青年の家を使用して1泊2日（8月28～29日）で学外実習を実施しました。鳥取大学から教員4名、職員1名とティーチングアシスタント4名（3年次学生）が参加しました。移動にはバス2台と公用車3台を使用しました。今年から実習スケジュールを変更し、初日は鳥取大学で開講式と翌日の実習準備を行い、2日目に畜産試験場に移動しました。畜産試験場では6班構成で施設見学（牛の精液採取・検査、超音波検査、牛舎・搾乳室）と講義を行いました。夕方に大山青年の家に移動し、直前実習として、翌日の大山放牧場での実習の予習を夕食後に行いました。大山放牧場では3班構成で畜舎衛生の実習（牛舎内の温湿度、風速の測定）と放牧地見学を行いました。各班は鳥取大学と岐阜大学の学生の混成としました。

「大学教育導入演習Ⅰ」は8月に実施のため、猛暑による体調不良や台風による実習中断などが過去にあり、トラブル発生を想定した上で対応をしています。実習後にはアンケート調査を実施して課題を抽出し、次年度の授業改善に向けて準備をしています。

「大学教育導入演習Ⅰ」の見学・実習を引き受けていただいた鳥取県農林水産部 畜産試験場と公益財団法人 鳥取県畜産振興協会 大山放牧場の関係者各位に感謝いたします。

写真1 畜産試験場での牛舎（搾乳室）の見学



写真2 大山放牧場での放牧地の見学



写真3 大山青年の家での夕食



写真4 全日程終了時、鳥取大学での意見交流会

